

駒大 000 100 020=3
拓大 000 010 201=4

4回に先制も・・・

1回戦

2016年度春季リーグ戦
第6週 5月10日
0勝1敗

サヨナラ負けを喫す

駒大3-4拓大

4回、8回に打線がつながり得点し、先発の東野も中盤安定した投球を見せたものの、終盤からの失策、四球など投打のかみ合わない試合展開となりサヨナラ負けを喫した。勝ち点奪取の勢いに乗りただけに痛い敗戦となった。

先制点を奪ったものの、まさかの結果に終わった。4回、2死二塁の場面で酒井良樹(法2)の右越適時二塁打で1点を先制。相手に追い上げられた8回には、長谷川雄飛(法4)、巴山颯太郎(法2)の適時打で試合を振り出しに戻した。

しかし先発の東野龍二(経3)をはじめとして4人を投入した投手陣は、全体的に投球に粘りがなく、四球でリズムを崩す場面も多く見られた。9回の裏には右越二塁打で無死二塁とされ、

打安点	
(8)米 満	420
(4)福 山	400
(7)長谷川	411
(3)巴 山	421
DH高 石	200
(6)菅 野	300
(9)酒井良	411
(5)中 道	300
H 青 地	100
5 青 木	000
(2)高橋亮	200
H 篠原仁	100
2 長	000
計	3263

	回	打安責
東 野	62/3	2941
伊藤一	0	100
白 崎	1	520
●伊藤大	02/3	611

敬遠策を取るも、高橋亮介主将(法4)が「守備体系に対しての考えが甘かった」と述べるように、続く打者に内野安打を浴びサヨナラ負けを喫した。西村亮監督は「大事なところで四球や失策を出している。自分たちを苦しめているところは解消できていない」と語る。投手の力の弱さだけでなく、失点時は守備陣の失策が目立った。

勝ち点が1に留まり、5位に沈むリーグ終盤。残る試合は少ないが、確実に試合をものにしなければならぬ。西村監督の言葉通り、前向きな反省のもと、次戦は投打の力が互いに生かされた試合が求められる。

文Ⅱ寒川朋子

2回戦

2016年度春季リーグ戦
第6週 5月12日
0勝2敗

失策続き、粘れず連敗

拓大 001 100 200=4
駒大 000 210 000=3

拓大4-3駒大

2回戦の先発は、谷中文哉(経4)。2回までは順調な投球を見せたが、3回に右適時打を放たれ先制される。さらに、次の回にも、左二塁適時打を放たれ追加点を許してしまう。

巻き返しを図りたい打線は4回、右安打と盗塁などで2死二塁の好機を作ると、「チャンスが来た時は絶対一本出すと決めていた」と話した高石大(法4)が右中間適時打で1点、酒井良樹(法2)が二塁打を放ち、同点に

先制したものの、サヨナラ負けを喫した一回戦。今季2点目の勝ち点を目指して挑んだ二回戦は、先制を許したものの、すぐに逆転。そのまま逃げ切るかと思われたが、7回に失策が続いて2点を失い、勝ち点獲得とはならなかった。

打安点	
(8)米 満	211
(4)福 山	410
(7)長谷川	410
(3)巴 山	410
DH高 石	411
(9)酒井良	421
(6)菅 野	310
(5)中 道	100
PH青 地	100
5 青 木	000
PH川合祥	100
(2)高橋亮	200
PR島 田	000
2 長	000
PH松 尾	100
計	3183

	回	打安責
谷 中	4	1642
●伊藤大	21/3	1131
東 野	22/3	1000

追いついた。打線の援護を受けたマウンドには5回から谷中に変わり伊藤大海(経1)が登場。この回、三者凡退に抑えると、その裏米満一聖(営3)が2死三塁の場面で右安打を放ち、逆転に成功した。

このまま逃げ切るかと思われたが7回、失策と四球で1死満塁の危機を作ると、中前適時打で2点を追加され、逆転されてしまう。この後も粘り強く立ち向かったものの、好機に恵まれず、4対3で敗れた。

西村亮監督は「心の強さという面で踏ん張り切れていない。瀬戸際が弱い」と2日間の試合の原因を分析した。

文Ⅱ宮本拓実